

宮城県における花粉発生源対策に係る取組について

1 花粉発生源対策の現状について

(1) 花粉の少ないスギ苗木への植え替えの現状

現在、県内のスギ人工林は約 13 万 ha であり、花粉の少ないスギ苗木への置換え率は累積で 0.23% となっている。

また、スギ造林面積のうち、花粉の少ないスギ苗木の占める割合を単年度ベースで見ると、令和 3 年度は 9%、令和 4 年度は 14% となっている。

単位：ha

区分	森林全体 a	スギ人工林 b	スギ人工林率 c=b/a	花粉の少ないスギ苗木 造林実績			置換え率 g=d/b	スギ造林実績 (R3)			スギ造林実績 (R4)		
				d=e+f	H18~H29 e ^{*1}	H30~R4 f ^{*2}		h	うち少花粉 i	少花粉率 i/h	k	うち少花粉 l	少花粉率 m=l/k
国有林	130,786	26,104	20.0%	—	—	118	75	19	25%	36	15	42%	
民有林	283,674	107,110	37.8%	—	—	57	207	5	3%	237	23	10%	
合計	414,460	133,214	32.1%	304	129	175	282	24	9%	273	38	14%	

※1 林業技術総合センターにおける挿し木の生産実績に基づく類推値(3,000本/haで換算)

※2 森林整備課資料及び森林管理署からの聞き取りによる実績値

(2) 花粉の少ないスギ苗木の生産量

苗木の生産量ベースで見ると、宮城県におけるスギ苗木全体に対する花粉の少ないスギ苗木の割合は 22.6% となっている。

一方、本県の少花粉スギの種子採取量は東北育種基本区内においても少ない状況にあり、実生苗木の生産は遅れている現状にある。

都道府県別 スギ苗木生産量

単位：千本

林木育種センター区分	名称	R2秋~R3春						(参考)	
		スギ全体	花粉の少ないスギ苗木			花粉の少ないスギ【割合】	少花粉種子採種量		
			実生計	挿し木計	挿し木率		R3	R4	
北海道育種基本区		199	0	0	0	—	0.0%	— kg	— kg
東北育種基本区	青森県	1,391	10	10	0	0.0%	0.7%	5.10 kg	8.50 kg
	岩手県	1,225	228	216	12	5.3%	18.6%	0.08 kg	16.50 kg
	宮城県	421	95	15	80	84.2%	22.6%	0.15 kg	0.08 kg
	秋田県	1,757	28	28	0	0.0%	1.6%	2.00 kg	5.00 kg
	山形県	607	71	71	0	0.0%	11.7%	5.44 kg	14.09 kg
	新潟県	148	1	0	1	100.0%	0.7%	0.00 kg	0.00 kg
	小計	5,549	433	340	93	21.5%	7.8%		
関東育種基本区		5,218	2,656	2,644	12	0.5%	50.9%		
関西育種基本区		2,971	633	583	50	7.9%	21.3%		
九州育種基本区		13,256	10,211	0	10,211	100.0%	77.0%		
合計		27,193	13,933	3,567	10,366	74.4%	51.2%		

出典：林業種苗の概要(林野庁整備課) ←秋季の苗畑実態調査をベースとした標記時期における出荷可能量
少花粉種子採種量については、宮城県独自調査

2 花粉の少ないスギ苗木の生産計画について

(1) 「宮城県スギ花粉発生源対策推進プラン」に基づく現計画

令和2年3月に「宮城県スギ花粉発生源対策推進プラン」を改定し、令和9年度までに県内に流通するスギ苗木の5割（40万本）、令和14年度には全て（80万本）を花粉の少ないスギ苗木に置き換えることを目標に設定している。

【参考：スギ花粉発生源対策推進方針（国目標値）】

- ・平成13年6月 策定：数値目標なし
- ・平成30年3月 改正版：平成44年度までに7割
- ・令和5年3月 改正版：令和14年度までに7割
- ・令和5年6月 改正版：令和15年度までに9割

(2) 目標の早期達成に向けた取組

現行計画では、花粉の少ないスギ苗木の本格供給は令和9年度となっているが、早期に種子を供給してほしいという要望を踏まえ、他県産種子の導入^{*1}や採種方法の見直し^{*2}により種子供給の増大を図ることとする。

※1 令和5年11月28日に神奈川県から少花粉スギの種子6.2kgが配送され、令和6年播種分（3kg）及び令和7年播種分（3kg）と2年に分けて苗組経由で生産者に配布する予定。約2年間の育苗期間を経て、令和7年度及び8年度には山行き苗木として約18万本ずつが生産されている見込み。

※2 本県では、袋掛けによる人工授粉を行っているが、今後は、他県では主流となっている、袋掛けの枝下等に結実する自然交配による種子を「花粉が少ないスギ種子」に追加することで採種量の増大を図る。

